



～歌～

D組「おもちゃのチャチャチャ」「やきいもグーチャーパー」「まつぼっくり」

歌がだいすき、手あそびがだいすき、そんなD組がかわいい曲を歌います。自分が選んだマラカスを持って、登場します。

C組「かたつむり」「とけいのうた」

『かたつむり』は、子どもたちの大好きな歌の一つです。口をたてにあけて歌うことにチャレンジです。『とけいのうた』は、1番と2番の「針」と「びよこり」の歌詞の違いに気を付けて歌います。かわいい歌声をお楽しみください。

B組「あわてんぼうのサンタクロース」「ぼくのミックスジュース」

『あわてんぼうのサンタクロース』を歌いこんだあと、『ぼくのミックスジュース』を紹介しました。園のあちらこちらで「歌ったよ！」と声が聞かれ、すぐに歌に馴染んでいきました。どちらの曲も軽快なリズムに乗って歌います。

A組「ふじの山」「あの青い空のように」

『ふじの山』は唱歌の美しさ、『あの青い空のように』はのびやかに歌う気持ちよさを感じながら、また、歌詞を味わいながら歌います。

～合奏～

C組「こおろぎ」「ふしぎなポケット」

子どもたちがよく知っている曲で合奏します。自分の選んだ楽器でリズムをしっかり打ちます。他の楽器と合わせていくことで、合奏になる楽しさも感じた子どもたちです。

B組「おさるのかごや」「手のひらを太陽に」

『おさるのかごや』は和の曲調で、子ども達にも馴染みやすく、また、『手のひらを太陽に』も歌をすぐに覚えて歌いながら練習を重ねていきました。先生の指揮を見て、ピアノを聞いて6種類の打楽器をみんなで合わせることを楽しみながら演奏する2曲をお聴きください。

A組「かわはよんでいる」「クラリネットをこわしちゃった」

『かわはよんでいる』と『クラリネットをこわしちゃった』をA組ならではのメロディ楽器（鍵盤ハーモニカ・木琴・鉄琴）と8種類の打楽器で合奏します。メロディ楽器のグループと打楽器グループで、パート練習を繰り返したあと、グループを合わせていきました。大合奏をおききください。

～表現～

D組「ぐるんぱのようちえん」

ぐるんぱになってお仕事チャレンジに出発します。作ったものをみんなで力を合わせて運んだり、ピアノの音を聞いて体を動かしたり…。楽しみながら身体表現します。

生活発表会当日は、子どもたち一人ひとりが持てる力を存分に発揮できますよう、温かい拍手をお願いいたします。

～劇～

C組 「おいもをどうぞ！」

くまさんの畑でおいもがどっさりとれました。くまさんは、半分ぶたさんにあげます。ぶたさんは、「ぼくたちだけではもったいない」とたぬきさんにあげます。たぬきさんも…。動物たちのやさしさを感じることで、そして、日常のあいさつを大切にしてきました。園でとれたおいもを昼食時にだすと、「おいもをどうぞ！」とセリフを言いながら食べるC組、日々の生活の中でも劇遊びを楽しみました。

B組 「十二支のはじまり」

皆さんに馴染みある干支のはなしです。演じるB組の子どもたちは巳年と馬年に生まれました。登場動物が多い一人ひとりがそれぞれの動物たちの役になり、セリフや、話の順番を覚えながら、自分達で工夫した動きを取り入れて話を展開していきます。練習を重ねるごとに、自分の役を演じることに自信が増していく姿が見受けられました。

A組 「わすれられないおくりもの」

「優しい気持ちの心を伝えたい」と集まってきた子どもたちです。絵本の世界にしっかり入り込み、いろいろな温かい気持ちをそれぞれに感じ、みんなでセリフや動作を考え、劇を作っていました。年をとったあなぐまが残してくれた知恵と工夫の豊かさによって、残された動物たちの心に変化していくさまを6名が伝えます。

A組 「エルマーのぼうけん」

エルマーはねこからどうぶつ島に捕らえられているりゅうの話を知り、りゅうを助けに行くことにしました。どうぶつ島で出会うどうぶつたちから逃げるだけでなく、持っている道具を使ってどうぶつたちに立ち向かっていきます。本を紹介した時、『エルマーのぼうけん』は長い話ですが、子どもたちは、頭の中であれやこれやと想像をしながら、お話を聞いていました。劇遊びをしていく中で、「あの役が楽しかった」「この動きがやってみたい」と意欲的に役を選び練習をしてきました。セリフの掛け合いの場面も多くあり、友だちと心を通わせて演じます。24名の子どもたちがエルマーのぼうけんを展開します。

A組 「ざぼんじいさんのかきのき」

ざぼんじいさん自慢の柿の木は毎年柿がたくさん実り、いつもひとりじめして食べていました。そんなある日、となりにまあばあさんが引越してきました。何でも楽しさに変えていく前向きさを持っているまあばあさんのところには、子どもたちがたくさん集まってきて、ざぼんじいさんの柿の木をめぐる話が進んでいきます。幼稚園の普段の生活から自然に出てくるセリフを取り入れながら劇にしていきました。まあばあさんと子どもたちの前向きさや優しさに触れながらざぼんじいさんが、周りの人と心を通わせるようになっていく…、文教オリジナルバージョンで14名が発表します。

エンディング

『たのしい幼稚園』をみんなで歌います。

